



×



まちなかダイバーシティ加古川 ～高齢者の健康交流・子どもの学習環境カイゼン～

チーム名：チーム兵庫大学大学院BM

今回取り組んだ加古川市の課題

① 認知機能の低下がみられる 高齢者の見守り

街中に1,500台の見守りカメラ設置
先進的な見守りサービスを開始

見守りカメラ付近を通れば、瞬時に検知。通過履歴を自動で記録。



(抜粋) 加古川市ホームページより

高齢者の利用者を増やしたい



BLEタグを持つ目的が必要

② 加古川市の空き家の 学習室としての活用について

空き家・空き店舗は増加傾向
学生が気軽に利用できる場所はない



左図 (出典) 空き家の動向：加古川市空き家等対策計画 (H30)

右図 空き店舗推移データ ※産業振興課で追加作成

正確なデータを把握できていない



市民ニーズを掴む必要がある

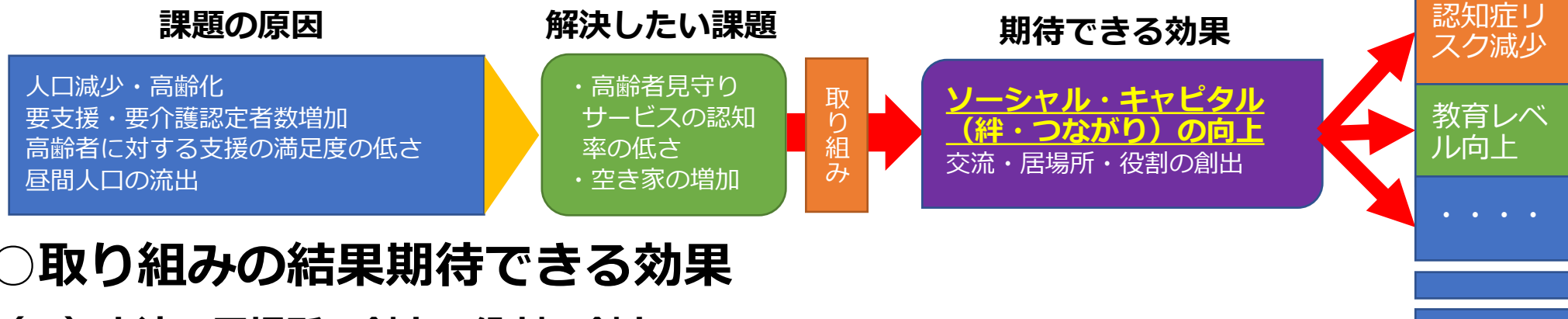


街中での交流を目的にした
多世代が利用できるフリースペース
があれば解決できるのでは？



課題へのアプローチ

○このアイデアを提案する理由



○取り組みの結果期待できる効果

(1) 交流・居場所の創出、役割の創出

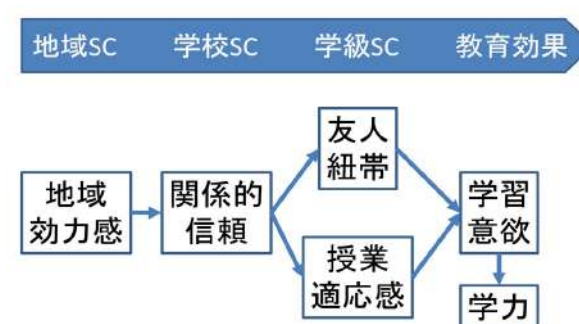
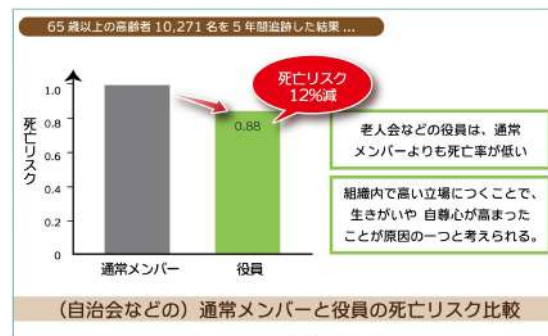
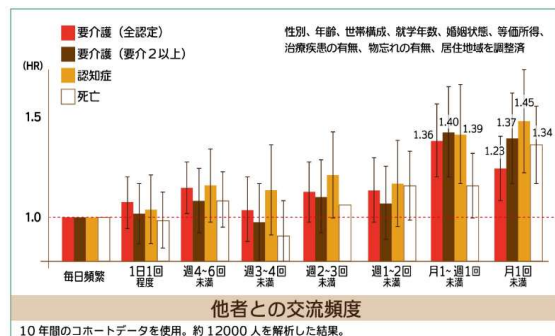
空き家を活用した家守事業および教育・福祉事業により、**利用者同士の交流**、市民への**居場所の提供**が可能となり、個人と地域の**ソーシャル・キャピタル (絆・つながり) が向上する**と期待できる。また、各事業を地域主体に運営することで、**役割の創出**にもつながる。

(2) 認知症リスクの減少

週1回未満の交流頻度は認知症発症のリスク
ただ単に交流するだけでなく役割を持って交流する方が効果的

(3) 教育レベルの向上

ソーシャル・キャピタルの醸成により
教育レベルも向上する



高齢者向けの交流事業の意義

① 認知症リスクの低下

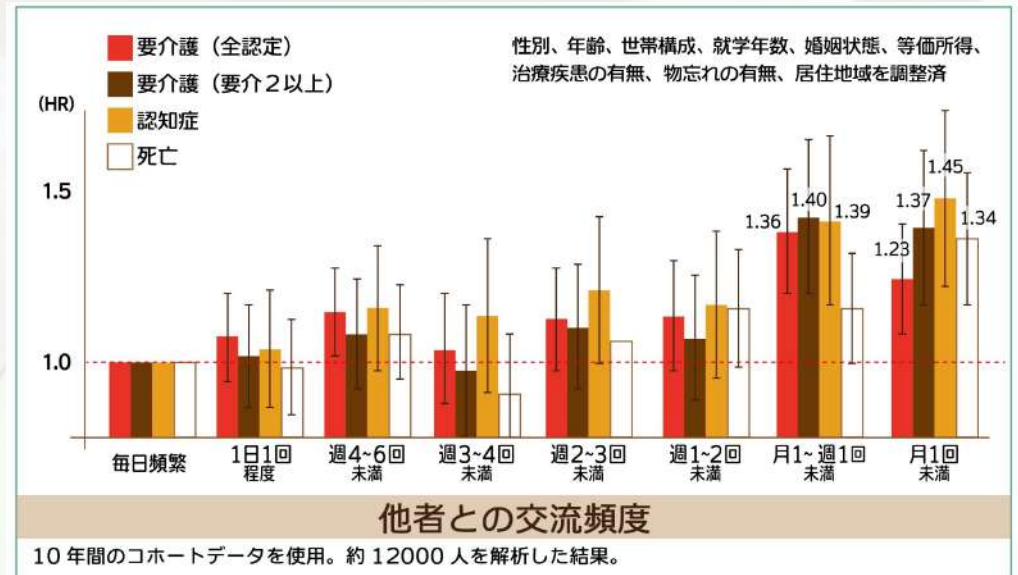
- ・ 週1回以上の交流が重要
- ・ 認知症リスク低下が期待できる

② ソーシャルキャピタルの強化

- ・ 居場所づくり
- フリースペースを活用して活動促進

③ 見守りサービス利用者の増加

- ・ 利用者の会員証 兼 スマートロック
- BLEタグを持つ目的をつくる
- ・ 見守りサービスをセットで提供



交流頻度と認知症リスク (出典：齊藤ら。日本公衆衛生学会雑誌 2015 ; 62(3) : 95-105.)

メンバーに現役の医師がおり、ソーシャルキャピタルの健康指標への影響について研究中



まずは外に出てくる理由づくりとして活動が必要
活動拠点を無償提供すれば非営利の交流事業はつくりやすい
自分たちの活動・交流のためにBLEタグを持ち歩くように



高齢者の習慣、交流頻度と健康指標を基に効果検証を実施

→ **介入効果を疫学的に厳密に評価可能** ※全国60自治体との比較も可能

家守事業によるフリースペース創出の意義

① 空き家・空き店舗の活用促進

- ・リアルタイムの情報がない
- 情報（データ）収集する体制が必要

② 活動団体が集まってくる

- ・場所の無償提供がインセンティブ
- 特定の団体に偏らせないことが重要

③ 街中への事業者誘致促進

- ・開業する人たちへの情報提供
- 事業者は効率的に「市民、学生、子育て世帯」の顧客にアクセスしてマーケティングデータ収集が可能



家守事業の運営イメージ（全部で5か所を管理する場合）

- ・固定資産税+aの回収からスタート
- ・他の4か所へのサービス提供により、家賃を少し高く設定
- ・1か所をフリースペース（公共スペース）として活用

例) 70㎡：固定資産税が5万～10万/年
住宅 6万/月、商業 8万/月の賃料
事業者からの家賃が@8万～10万/月で20～30万が粗利
家主にはミニマムの賃料2万/月×5か所で経費を抑える

「賃料支払い能力のある事業者＝パートナー組織」が増えていくことで
街で負担できるフリースペースの数も増やしていける
フリースペースを管理するチームがコミュニティとして機能する



行政予算を必要としない賑わいづくりの実現、他施策へのデータ提供

まちなかダイバーシティ加古川の狙い

フリースペース創出の効果

- ①活動を持つキーマンが集まる
- ②パートナー組織が拡大
- ③主要な情報が集まる場に発展
- ④施策立案・サービス開発を支援

※まだまだ街の
データ可視化は
進んでいない



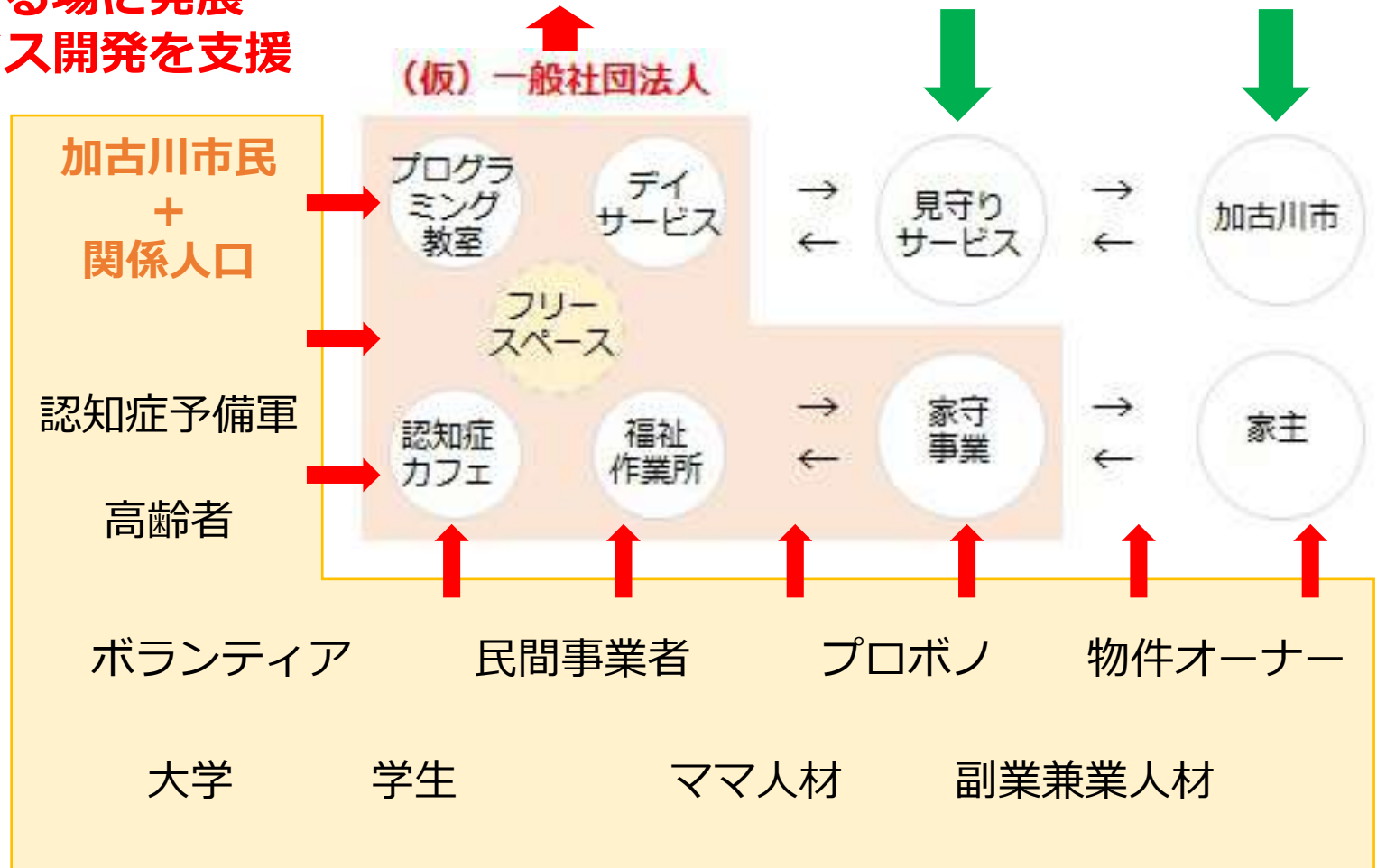
データを集める
組織ができれば
更なるデータ
活用につながる



デジタル技術の
活用も支援
していく考え

データ収集→分析→提供

データ運用会社 → 自治体
→ サービス事業者



今後の動き

①組織化に向けてミーティング

→大学院の講義から企画がスタート、有志での組織化に向けて準備中

②令和4年度加古川市協働のまちづくり推進事業へ応募

→産業振興課と連携して空き店舗活用に向けて動き出す

令和4年度に実際に加古川市内で実証実験を実施予定

事業の担当課である市民活動推進課のプレゼンに向けて準備中

採択されれば街中の空き店舗情報を独自調査する予定

③パートナー組織の調査

→参画メンバーかつ担当教授である高野教授にも相談中

兵庫大学をはじめとした様々な団体への声かけを計画中

④フリースペース候補地の調査

→令和4年4月から本格的に調査をスタート

家守事業の事業計画を策定予定

一般社団法人の設立を計画中

ご清聴ありがとうございました！

Special Thanks

加古川市役所

政策企画課、住宅政策課、産業振興課、市民活動推進課

チーム兵庫大学大学院 B M

兵庫大学大学院現代ビジネス研究科

阿籬 政志 井階 友貴 栴澤 裕也

川端 教文 高野 敦子 野々村 竹弘 松本 恭輔